



地方独立行政法人

那覇市立病院

梯 きざはし

2017.1
Vol.

31

那覇市立病院が目指す先は

<http://www.nch.naha.okinawa.jp>

ご挨拶



病院長 屋良 朝雄

2017年は社会も医療界もダイナミックに動き始めるはず！市立病院に置き換えても、病院の建て替え計画、地域医療構想調整会議、新専門医制度、ワークライフバランス(労基法など)、医療事故調査制度、医局人事の問題・課題などが容易に思い浮かぶ。すべてが強者で、重要な事柄ばかり。長期的展望と今やらねばならないことが交錯する。攻めるべきか、守るべきか？逆流に抗うべきか、流れに任せるべきか？

閉塞感の強い時代、みんな戦っているのだと感じ入る。改めて、一人では生きていけないことを痛感する。いよいよ家族や友人達の暖かさ、職場の同僚やまわりの同志との絆が必要不可欠だ。

とはいえ、ここかしこで、生きている喜びは享受したいとしたたかに思う。2017年、幸せという青い鳥(酉)は、やはり身近にいるのかもしれない。

「優しさと強さと楽しさ」で幸せを呼び込みましょう！素敵な1年になりますよう、宜しくお願い致します。



副院長兼診療部長 大城 健誠

明けましておめでとうございます。今年は地域医療構想及び建て替え基本構想・計画のスタートの年で、いつもとは異なり、将来を見据えたアクションを起こさなければならず、当院にとって、勝負の年になります。磁気共鳴診断装置(MRI)がクリアーで精密な画像を提供するように、強力な磁場(院長の屋良ベクトル)に職員一人一人が反応し、同じベクトルを共有し、共鳴して、それらを更に増幅させて、これから先の理想的な我が那覇市立病院の将来像が描けるように頑張っていきましょう！今年もよろしく願い申し上げます。



副院長兼医療支援部長 新垣 均

新年明けましておめでとうございます。暖かくて今年は本格的な冬は来ないのかと思われる日が続いたのを記憶しています。

昨年4月に屋良院長を中心とする新しい体制になりましたが、あっという間に新年を迎えることになりました。昨年は病院の赤字問題を中心に職員間のコミュニケーションを強化した1年でした。

今年も那覇市立病院にとっては赤字問題、建替え問題、地域医療構想問題など課題は山積みですが、院内の職員だけではなく、地域のクリニック・病院や医師会など多くの皆様とのコミュニケーションを更に深め、乗り越えていきたいと考えています。

又、時間外労働の問題が社会的にクローズアップされており、病院も例外ではありません。ワークライフバランスを考え、「仕事も遊びも頑張る」をモットーに、職員にも地域の皆さんにも愛される那覇市立病院を目指して行きたいと思えます。

新年の



副院長兼医療技術部長 外間 浩

みなさん明けましておめでとうございます。去年の4月より副院長に就任し、今まで年間60日近く行っていた当直がなくなり、医師になって初めて当直のない年末年始を過ごしました。また、院外での仕事もだいぶ増え、長年の生活パターンが大きく変化しました。

医療以外のこと、特に病院経営や運営について学ぶ機会をたくさん持つ時間ができました。少しずつですが“やるべきこと”が見えてきました。今後は学んだことを情報発信すること、病院建替えに向けて皆さんとの情報共有を図っていきたいと思います。

今年は今までと全く違う年になります。皆さんのご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。



副院長兼看護部長 藤本 みゆき

あけましておめでとうございます。昨年、看護部においては「退院調整看護師」が誕生し地域連携の強化と看護の質の向上に努めてまいりました。さらに救急病床の運用開始に伴い「看護補助者を夜間配置し、救急患者さんがスムーズに入院できるよう体制を整えました。

これからの超高齢化社会を支えるために今年度は「地域包括ケアシステム」の構築に向けて地域の皆さまと共に積極的に取り組んでまいります。2017年が皆さまにとって素晴らしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



事務局長 砂川 敦

新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎えると、これまでの年々の歩みを振り返り、これからの新たな展望に挑む意欲が溢れてきます。那覇市立病院は、市民医療を確保し市民の健康と福祉の増進を図ることを目的に、昭和55年5月1日診療科14科、一般病床295床の総合病院として開設、現在は診療科33科、470床となっております。

開設当時は病院等の医療資源環境が厳しい状況下にあつて、那覇市立病院は広い吹き抜けのロビーを備え快適な総合病院として大いに期待されました。平成29年度現在で市立病院は開設37年目を向かえ、建て替えが大きな課題となっております。

このようなことから、今年は病院の建て替え計画を策定し着実に建て替え事業を進めることが目標になります。病院運営を取り巻く環境は厳しい状況下にあります。市民の建て替えに関する要望も大きくなっており。病院設置者である那覇市と協議を重ね、市民の皆様へ新しい那覇市立病院の形を速やかに報告できるよう取り組んで参ります。

市民の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

屋良 朝雄 院長

「現在当院に求められていること」

今後を語る。

1. 医療の質について

急性期医療の充実を図ります。特に、24時間救急医療は当院の最重要分野であることに変わりはありません。民間病院の対応が困難な24時間小児救急医療、地域周産期医療は、公立病院の使命でもあり、重要な分野です。少ない人数で奮闘している救急医、産科医、脳外科医等のバックアップも要となっています。高度最新医療の推進も重要なテーマです。

がん診療連携拠点病院としての役割も求められています。当院が得意とする多職種が関わる「チーム医療」を発揮していきましょう。

2. 経営の質について

多くの病院も同様だと思いますが、近年は増収低収支傾向で、収益以上に費用がかさみ、黒字経営を維持することの困難さを痛感しています。より効率的、より戦略的にそして優秀な人材の確保など、今年も医療の質の確保とともに大きな課題はあります。

3. 地域医療支援病院としての立場

しかしながら、実態はまだ十分にその責務を果たしているとは思えません。地域に出でよ！当院が期待されている役割がもっとあるはずです。地域へ積極的に、協働的に、具体的に入り込んでいく、地域連携エポックメイキングな年にしたいと思います。

4. 地域医療構想への対応

今年3月までには、県の地域医療構想案が策定されます。その後は、二次医療圏毎の調整会議が始まり、熱い熱いディスカッションになりそうです。2025年の地域医療の病床機能分化・効率性をすすめていくために、地域の医療機関が納得のいく形での構想実現を期待しています。俯瞰的に地域医療を鑑みながら、当院の立ち位置を十分理解し、熟慮していきたいと思います。

5. 新病院建て替え問題

当院も開設後37年目を迎えてしまいました。古い病院なのに奮闘しているとも言えますが、県内の多くの病院が新しく綺麗に変貌していく姿を、横目で見やりながら、羨ましく思っている次第です。職員のみならず、同じ思いに違いありません。今年、当院もいよいよ病院建て替え構想～計画に着手することになりそうです。その際は、明日の市立病院を担う皆様が計画の中心メンバーになります。今後の病院について、夢・使命・目標と現実をつき合わせながらアクションをおこしていきましょう。



国は2014年に「医療介護総合確保推進法」を成立させました。これは地域包括ケア構築など“全世代を対象とした社会保障制度改革をするための法律”です。翌年の2015年には「病床機能報告制度」を立上げ、地域の病院機能の見える化を実施しました。以上から地域医療構想をより合理的で民主的に物事を決定するプロセスが可能となったのです。つまり国による地域医療のコントロールが開始された訳です。コントロールとは医療に対する過剰投資を抑制する事で、それをする為の合理的な理由付けをする方法を得たということになります。

那覇市立病院の病床数削減は必至の状況となっており、国の医療政策により平均在院日数の短縮を迫られている中、自治体病院は「介護の動向を理解しなければ退院調整ができない」状況となっています。地域完結型医療の推進についても、政策が強く反映されており、現在第6次介護保険事業において、市町村では介護事業や在宅の整備が進められていることを視野に入れ、在宅医療との連携を強化しなければ、自治体病院は地域包括システムの中で孤立する可能性があります。

山形県酒田市病院機構理事の栗谷義樹氏によると2006年に県立・市立病院の再編統合により、急性期病院を担う日本海総合病院と慢性期中心の酒田医療センターにおいて機能分担が順調に進み、手術件数、医師数も増加していると報告されています。地域における医療機能分担は今後の経営健全化を考える上でも非常に重要な考え方になりそうです。これは、病院単独ではなく地域で必要な地域医療体制のための費用を効率化できる仕組みで、医療機関同士の際限ない消耗戦を続ける愚かなことは終わりにし、今後15~20年で団塊の世代が去る歴史上経験のない時代を乗り越える仕組みづくりを考えた医療政策です。このよ

うな時代に市立病院は建て替えを迎えるわけで、市立病院再建問題、建替問題解決にあたって、この重要な医療政策を今後議論しなければなりません。

もう一つ的那覇市立病院の大きな問題の一つとして、「新専門医制度問題」があります。前回の臨床研修医制度改革で医局制度は崩壊に追い込まれ、地域の医師不足を招き地域医療は崩壊しましたが、その解決のために国は新たな解決策として新専門医制度をまもなくスタートさせようとしています。この制度でも短期的に新たな医師の偏在が起ります。この影響はすでに市立病院にも徐々に現れており、この影響を解決するにはいくつかの方法が考えられます。一つは、独自に基幹病院としての道を模索する。もう一つは他の大きな基幹病院（琉球大学）との連携です。

しかし、今の状況では基幹病院として名乗りを挙げるには市立病院の実力としては難しいと言わざるを得ません。いくつかの科は大学との医師派遣があり、連携がありますが、それが無い科にとってはこの問題を乗り切るのは困難と考えます。現在専門医がいる診療科でも、いずれ医師は退職しますので、そのとき医師の補充ができなければ当院にとって死活問題となります。さらに問題は、その後の人材育成もできなくなるということです。前述した今後の国の医療政策に対応した病院組織作り、建て替え問題を考えたときにこの問題を解決しなくては市立病院の将来はかなり困難な道が待っていると考えられます。

現在の市立病院の各科の新専門医制度に対する考え方を管理職として把握、コントロールすることは将来の市立病院にとって非常に重要なことだと考えています。

外間 浩 副院長

やるべきこと。



平成28年度 登録医総会・地域医療連携特別講演会・連携交流会開催

医療支援部 地域医療連携室



平成28年9月15日(木)に平成28年度那覇市立病院「登録医総会・特別講演会・連携交流会」をダブルツリーbyヒルトン那覇首里城(旧ホテル日航那覇グランドキャッスル)にて開催いたしました。当日は登録医総会106名、特別講演会202名、連携交流会286名の皆さまにご参加を頂き、大変な盛況となりました。

【登録医総会および特別講演会】

18時半から那覇市立病院登録医の先生方を対象に、玉城一(たまきはじめ)地域医療連携室長による「平成27年度連携実績報告」を行い、19時から那覇市立病院外科科部長兼がん診療連携室長宮里浩(みやざとひろし)医師を講師とし、地域医療連携特別講演会を開催しました。前回までは県外から講師をお招きしておりましたが、今回は当院の医師による初の講演となりました。

「がん医療における地域連携(がん診療連携拠点病院としての当院の取り組み)」をテーマに、沖縄県内のがんの状況のお話からがん診療連携拠点病院としての当院の取り組みとしてがん診療連携パス、がん総合相談支援センター、がんリハについて紹介して頂きました。



(写真①②) 受付担当スタッフ



(写真③④) 玉城一先生(地域医療連携室長)



(写真⑤) 宮里浩 外科科部長



(写真⑥) 地域医療連携特別講演会の様子

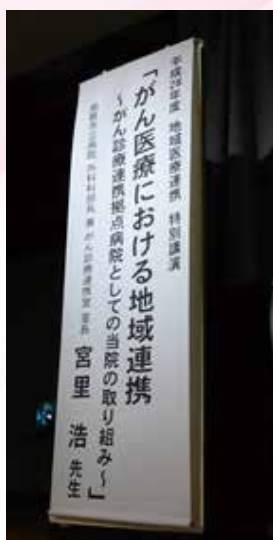
現在、当院で行っているがん患者さんに対する重点的取り組みとして「就労支援」「大腸がん死亡率を減少させる」の2つをあげ、がん患者さんのうち3人に1人が就労可能年齢にて、がんに罹患しており、就労支援が急務であるとお話されました。

はじめに就労支援には他職種による連携が必要であり、当院でも関係機関と協力しながら支援に力を入れています。

続いて「大腸がん死亡率減少」については、平成26年に大腸がん75歳未満年齢調整死亡率において、沖縄県の女性が全国ワースト1になってしまいました。

原因の一つとして、検診の受診率がとても低い事を挙げ、一人でも多く早期発見を増やすため、内科と外科へ通院中の患者さんの中で、大腸がんのリスクが高い患者さんへ、検診受診の呼びかけを実施しており、今後は婦人科、泌尿器科など、他診療科へも広げていく予定とお話されました。

最後に「検診を受診して頂くよう患者さんへ呼びかけをお願いしたい」と会場の登録医の先生方へ依頼し、講演は終了となりました。



(写真⑦) 特別講演 演題



(写真⑧) 地域医療連携特別講演会における質疑応答の様子

その後は会場を守礼の間へ移し、19時45分から連携交流会の開始となりました。外間浩（ほかまひろし）副院長による開会の挨拶のあと、屋良朝雄（やらあさお）院長による病院長挨拶、その後、那覇市医師会山城千秋会長の乾杯の挨拶でスタートとなりました。



(写真⑨) 屋良 朝雄 院長



(写真⑩) 新垣 均 副院長

人の波をかき分けなければ前に進めないほど満員となった会場では、参加者の方々が笑顔で交流している様子がたくさん見られました。当院は「地域医療支援病院」として、これからも地域の医療機関の皆さまと、顔の見える連携を目指してまいります。



(写真⑪) 那覇医師会 山城千秋会長

交流会も中盤に差し掛かったところで、各診療科代表者による診療科紹介を行いました。中には歌を交えながら紹介を行う先生もおられ、当院の持つている多彩な魅力やユーモアをアピールできたのではないのでしょうか。また研修医1年目・2年目の先生方は自己紹介を行って頂きました。大勢の皆さまを前に緊張している様子も見られましたが全員堂々と自分をアピールしており頼もしい限りでした。地域の先生方にはこれからも当院研修医へのご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願ひします。



(写真⑫⑬) 左：仲宗根先生（整形外科） 右：喜屋武先生（呼吸器内科）



(写真⑭⑮) 左：新垣先生（血液内科） 右：宮田先生（麻酔科）





(写真⑬⑭⑮) 左：伊波先生（小児科） 中：渡嘉敷先生（産婦人科） 右：宮良先生（腎臓内科）



(写真⑯) 臨床研修医



(写真⑳) 司会の前原さん



(写真㉑)

那覇市立病院地域医療連携室

最後は藤本みゆき副院長の閉会挨拶で会は終了となりました。後日談ですが、「〇〇クリニックの先生にはいつもご紹介を頂いているから、ぜひお会いしたかった。いらっしやらないのは残念」「外科の〇〇先生にぜひお会いしたかった。患者さんを紹介した際に迅速に対応頂いた感謝を直接お伝えしたかった」との声がありました。今回残念ながら参加できなかった皆さまにはぜひ来年はお越し頂き、交流を深めて欲しいです。皆さまから頂いた激励を活力に、医療機関と連携を取りながら今後も地域の皆さまの健康を守る為、より良い医療の提供に努めてまいります。



(写真 8 枚) 交流会会場の様子

『多職種合同カンファレンス』

(ワールド・カフェ)

「治す」医療から「治し支える」医療へ
 がん診療連携室 がん相談支援センター

平成28年8月30日(火)、那覇市立病院3階
 講堂において、訪問診療医師・訪問看護師・訪
 問薬剤師・訪問リハビリ職・訪問栄養士等の
 地域で活躍されている医療・介護関係者と、
 当院スタッフによる「合同カンファレンス」
 を開催しました。

平成30年には、全市町村が「地域包括ケア」
 事業を実施することになっていますが、急性
 期医療を担うスタッフと在宅医療や介護を担
 うスタッフ等の多職種間の相互の理解や情報
 共有が十分にできていない現状があります。

そこで今回は『自分の職種の役割や得意分
 野、考え方などを多職種に伝え、お互いに話し
 合い、学び合うこと。信頼して連携を深めるた
 め、お互いの業務の現状などを知り、忌憚のな
 い意見が交換できる関係を構築すること。相
 互に理解し合い、お互いが親しみや尊敬を抱

き合う関係づくりを行うこと。』を目的に、主
 に那覇市内の関係者に呼びかけて開催しまし
 た。

最初に、きなクリニックの喜納美津男院長
 に「地域包括ケアシステムにおける在宅医療
 の実際」について講演いただき、次に当院内科
 部長の知花なおみ医師より事例紹介を行いま
 した。

その後、ワールド・カフェでは、職種が重な
 らないように、参加者が時間毎にテーブルを
 3回移動し、「治し支える医療とは?」「それぞ
 れの専門職の強みやできること」「患者の思い
 を皆で共有し支援するためには」等のテーマ
 について自由に話し合いました。

〈参加者の声〉

・多方面からの切り口が見えて大変参考にな
 りました。(医師)

・介護支援専門員・医療ソーシャルワーカー・
 訪問看護師のすばらしい支援の存在を知っ
 て大変良かったです。(医師)

・医師として在宅医療・介護の認識不足を感
 じた。(医師)

・それぞれの立場で患者さんをみる視点が違

い、目からウロコ状態でした。本当に良い機
 会になりました。(看護師)

・いろいろな職種からの意見・アドバイスを
 聞くことで、自分の現場でも活用できるよ
 う努力したい。(看護師)

・医療は患者・家族とともに進めていくもの
 だと改めて思いました。(薬剤師)

・あまり交流のない医師・看護師・相談員等い
 ろいろな視点で話し合えたので、考えが大
 きく広がった。(介護支援専門員)

・自分達が悩んでいることを共有できたり、意
 見が聞けると嬉しいです。(訪問看護師)

・病院と地域の連携をどうしていったら良い
 か考える機会となったことは大変良かった。
 (訪問薬剤師)

今回のワールド・カフェでは、院長始め4
 人の副院長全員が参加し、院外医師8人、院内
 医師22人、その他職種含めて総勢100人の
 賑やかなカフェになりました。今後も職種の
 専門性を活かし、多職種で協働できるシステ
 ム作りを目指した企画を展開しますので、内
 容・方法等のご要望もぜひお寄せください。



(写真①) 78Cafe OPENの看板



(写真②) 各グループに分かれてディスカッション



(写真③) 各グループの発表を聞く



(写真④) 様々な職種から意見が飛び交う



(写真⑤) 真剣に議論中



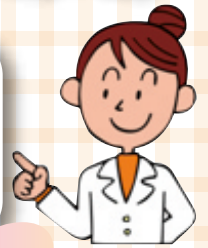
(写真⑥) 大城副院長のユニークな発言に会場もほんわか



豚肉の和風キノコあんかけ

きのこ類はビタミン・ミネラル・食物繊維を多く含み、野菜類・海藻類と共に食事に積極的に取り入れたい食材です。

また、低カロリー食材であるため、摂取カロリーを抑えつつ量をしっかりと食べたいという方におすすめの食材です。料理にたっぷり取り入れて、ボリュームUP・満足感を得ることに繋げることができます。



ポイント!

～バランス～

- ・主菜（蛋白質）と副菜（きのこ類）を取り入れてバランスの良い1品へ

～減塩～

- ・椎茸だしの旨味や生姜、ネギなどの香菜を使うことで、減塩でも美味しく深みのある味になります。
- ・あんかけにし、食材（豚肉）の表面に味をからませることで、減塩でもしっかりと味を感じることが出来ます。

【材料】 4人分

| | |
|----------|----------------------|
| 豚ロース | 240g |
| 小麦粉 | 適量(小さじ1/2) |
| 炒め油 | 4g(小さじ1杯) |
| 長ネギ | お好みで |
| あん具材 | { |
| 玉ねぎ | 1/4個 |
| 椎茸(乾) | 10g(5個) |
| しめじ | 50g(1/2パック) |
| えのき | 40g(1/2パック) |
| 炒め油 | 4g(小さじ1杯) |
| あん合わせ調味料 | { |
| だし汁 | 200ml(1カップ) |
| 醤油 | 24ml(小さじ4杯) |
| 酒 | 20ml(小さじ4杯) |
| 砂糖 | 9g(大さじ1杯) |
| 生姜 | 4g(一かけ or チューブ生姜2cm) |
| 片栗粉 | 9g(大さじ1杯) |

乾燥椎茸のもどし汁を活用すると旨味がUP!

一人当たりの栄養量

エネルギー150kcal、蛋白質1.5g
塩分0.9g

作り方

- ① 材料の仕込みを行う
玉ねぎ・・・薄くスライス、えのき・しめじ・・・いしづきを取りほぐす
乾燥椎茸・・・水でもどし、薄くスライスする。もどし汁はだし汁として利用する
豚肉・・・小麦粉をまぶしておく
- ② フライパンに炒め油をひき、豚肉を焼く
- ③ 豚肉に火が通ったら皿に取り上げておく
- ④ 小鍋またはフライパンに炒め油をひき玉ねぎ・しめじ・えのき・椎茸を入れ炒める
- ⑤ ④に火が通ったらあんの合わせ調味料を加え、ひと煮立ちさせ、水溶き片栗粉でとろみをつける
- ⑥ ③の豚肉に出来上がったあんをかけ、長ネギ(アサツキでも可)をちらして完成♪



第44回 那覇市各課対抗厚生会 バレーボール大会優勝 & 3位獲得

平成28年10月に那覇市厚生会主催のバレーボール大会が開催されました。総勢60チーム以上が参加し、約2週間にわたってトーナメント形式で実施される年一回の大きなイベントです。

那覇市立病院から「診療部チーム・コメディカルチーム・事務局」の計3チームが



優勝「診療部チーム」



エントリーしました。

日本バレーボール協会が制定する9人制ルールを適用し、チームには女性または50歳代男性を2名以上必ず試合に出さなければなりません。この大会は毎年開催され、上位を目指すチームが多く参加しており、勝ち進むにつれて試合のレベルも上がり、なかなかベスト4に残ることが難しいです。

しかし今回の大会ではベスト4に当院の2チーム(診療部と事務局)が残りました！これまでに無い好成績をおさめ、結果として、診療部が優勝を飾り、惜しくも決勝対決を逃しましたが、事務局が3位を勝ち取りました。

大会を通して職員間の絆が強くなり、益々チーム医療が発揮できるのではないかと思います。会場には同僚が数多く応援に来てくださり、それをパワーに変えて戦えました。

来年は1位と2位を独占したいと考えているので、今から練習に励みたいと思います。



3位「事務局チーム」

登

録

医

紹

介

当院と連携してる登録医を紹介しています

当院は病診連携を一層推進するために登録医制を設けております。オープンシステムも備えています。
お問い合わせは地域医療連携室まで！ TEL.098-884-5134（直通） FAX.098-886-5502

ロコモクリニック南城

【診療科】 整形外科、リハビリテーション科、内科一般、
スポーツ外傷、運動機能低下、各種健診、健康相談、予防接種
【検査】 超音波診断装置、天井走行型レントゲン、心電図



院長 上原 敏則



| 受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------|---|---|---|---|---|---|
| 午前 9:00~12:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 午後 14:00~19:00 | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × |

休診日：水曜午後、土曜午後、日曜、祝日

☎949-1155

〒901-0618 南城市玉城字船越 949-4



デイケア併設しています

安里駅前こまつ歯科医院

【診療科】 歯科、小児歯科、歯科口腔外科



院長 小松 正弥



| 受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------|---|---|---|---|---|---|
| 午前 9:30~13:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 午後 14:00~18:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

休診日：日曜・祝祭日

☎894-7711

〒902-0067 那覇市安里 2-6-27 ルエ・メゾン・ソピア 1F ※ゆいレール安里駅から徒歩1分



Joy レディースクリニック くもじ

【診療科】産婦人科、女性内科、禁煙外来

【検査】子宮がん検診、月経異常、避妊相談、更年期障害、性感染症、特定健診



院長 大島 教子



| 受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------|---|---|---|---|---|-------|
| 午前 10:00~12:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | 14時まで |
| 午後 14:30~19:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × |

休診日：金曜、日曜、祝祭日、土曜日午後

☎943-2500

夜 8 時まで診療！



〒900-0015 那覇市久茂地 1-8-16

※バス停「琉銀本店前」徒歩1分 ※ゆいレール「県庁前駅」徒歩3分

<http://www.joy-kumoji.com/>

回答

ご意見の内容をファミリーマート責任者へ報告しています。当院のテナントである以上、病院という施設の特徴を考慮した接遇を行い、2度とこのようなご不快な思いをさせないよう再発防止に努めるよう指導しています。大変貴重なご意見ありがとうございます。

ご意見②

院内のファミリーマートスタッフの接客がありません。一言も言わずレジに立っていて、何も言わずポイントカードもサッと取り、マスクをしても笑顔で無いことが分かるし、とにかく気分を害しました。基本このコンビニでは全体的に気持ちよく買い物できませんでした。

回答

このたびは、お褒めのお言葉を頂き誠にありがとうございます。患者さんが安心して療養生活を送れるように日々努力しており、今後も患者さんの気持ちに寄り添った医療サービスの提供及び看護を徹底したいと考えております。貴重なご意見ありがとうございます。

ご意見①

入院中に医師・看護師・助手・清掃の方、関わった全ての方がとても優しくかったです。特に看護助手の方で寒さを気遣って毛布をもう一枚持ってきて頂いたことがとても嬉しかったです。丁寧にベッド移動の説明をしてくれたり、私への協力も申し出てくれたりと、家族に接しているようでした。



ふれあいポストとは・・・

病院に対する意見・要望・苦情の投書箱のことです。当院では院内各所に「ふれあいポスト」を設置し、病院改善や患者サービス向上に努めています。

病院からのお知らせ 「眼科外来休診」のご案内

平成29年3月1日より
眼科医の不在により、
眼科外来は「休診」となります。
ご迷惑をお掛けいたしますが
ご理解下さいますよう
お願い致します。

診療科

内科 呼吸器内科 循環器内科 消化器内科
血液内科 腎臓内科 糖尿病内科 内分泌内科
リウマチ科 小児科 精神科 外科
呼吸器外科 消化器外科 小児外科 内視鏡外科
乳腺外科 整形外科 脳神経外科 皮膚科
泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 救急科
リハビリテーション科 病理診断科 放射線診断科
放射線治療科 麻酔科 歯科口腔外科 歯科

受付時間

8:00～11:00 / 13:00～16:00

※診療科によって異なります。ホームページの外来
医師担当表において、各診療科の受付時間を掲載
しております。ご確認ください。



病院理念

- 一、私たちは、市民の安心できる病院をめざします。
- 一、私たちは、微笑みと優しさを持って接するよう努めます。
- 一、私たちは、診療内容をわかりやすく説明・開示するように努めます。
- 一、私たちは、いつも最新の質の高い医療をめざします。
- 一、私たちは、地域の医療機関と協力して開かれた病院を目指します。
- 一、私たちは、医療・福祉・保健の相互連携の発展に努めます。

患者さんの権利

- ・だれでも人権が尊重され良質な医療を公平に受ける権利を持っています。
- ・病気、検査、治療などについて、理解しやすい言葉や方法で十分な説明を受ける権利があります。
- ・十分な説明を受けた上で、治療方法などを自分の意志で選択する権利があります。
- ・診療の過程で得られた個人情報は守られ、プライバシーは可能な限り尊重されます。
- ・自分の診療記録情報の開示を求めることができます。



地方独立行政法人

那覇市立病院

〒902-8511 沖縄県那覇市古島2丁目31番地1 TEL 098-884-5111(代)